

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント	
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)					
1 教育内容の充実	<p>(現状)</p> <p>○H31(R1)の学生に対する授業評価アンケートで、講義が分かりやすいと回答している学生は58.5%であった。また、農業技術検定3級合格率は66.7%、2級合格率は5.3%であった。</p> <p>○非農家や普通科高校からの学生も増える中、きめ細やかな対応が求められているが、人事異動等により経験豊富な教員も少なく、対応に苦慮している。</p> <p>○ICTやドローン等を活用した新技術やGAPの取組が現場で普及しつつある。</p> <p>○ハード面での教育環境の整備も必要だが、施設、設備、備品の多くが老朽化しているにもかかわらず、更新や修繕が進んでいない。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策による休校(4/9～5/31)により、講義・実習等に遅れが生じている。</p> <p>○令和3年4月開設予定の日本初の「いちご学科」創設に向け、準備を進めている。</p> <p>(課題)</p> <p>●時代の変化に合わせた学生へのきめ細やかな対応と卒業後に円滑な就農ができるよう、基本知識・技術の習得はもちろん、先進技術の習得、資格取得等が必要である。</p> <p>●教職員の専門性や指導力の向上が必要である。</p> <p>●ICTやロボット技術、ドローン活用等スマート農業を取り入れた実習が求められている。</p> <p>●施設、設備、備品の更新や修繕を着実に実施するため、計画的かつ効果的な予算の確保が必要である。</p> <p>●学生に休校期間中の講義や実習等を履修させるため、オンライン授業やカリキュラムの組替え等の対応が必要である。</p> <p>●「いちご学科」創設に向け、入試やカリキュラム策定等学生募集に係る事務や広報PR、施設整備等を着実に進める必要がある。</p>	<p>分かりやすい講義(アンケート結果)</p> <p>大体分かる</p> <p>80%(96名)</p> <p>農業技術検定合格率</p> <p>3級 100%(41名)</p> <p>2級 50%以上(15名以上)</p> <p>スマート農業に接する学生の割合</p> <p>100%(121名)</p>	<p>(1)教育スキルの向上</p> <p>○教員研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教職員を対象として、教科目の履修等に係る説明会を実施する。(4月)</li> <li>・新任教職員を対象として、授業に対する理解度向上のため授業見学を実施する。(8月)</li> <li>・「授業の持ち方、指導方法」等に関する意見交換会を開催する。(8月)</li> </ul> <p>○指導者研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者研修教育施設指導職員新任者研修(9月)</li> <li>・全国農業大学校教育研修会・指導力強化発展研修会(9月)</li> <li>・関東ブロック農業教育施設協議会担当者研修会に参加する。(未定)</li> <li>・研修終了後、伝達講習会を実施する。</li> <li>・農業高校農業部会が開催する勉強会について、内容に応じて適宜出席する。</li> </ul> <p>○授業評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の理解度を向上させるため、学生と対話しながら理解度を確認しつつ、よりわかりやすい講義に努める。</li> <li>・より質の高い教育を行うため、全学生を対象に、前期、後期授業の授業評価アンケートを実施する。(7月、2月)</li> <li>・併せて、休校に伴い実施したオンライン授業についてもアンケートを実施する。</li> <li>・アンケート結果から、授業方法等の改善について、分析・検討する。</li> </ul>	<p>○教員研修会の開催</p> <p>4/3新任教職員を対象として、教育計画書及びシラバスの要点について説明(4名)</p> <p>・8/20宇都宮大学准教授「植物生理」の講義を授業見学(4名)</p> <p>・8/20指導方法研修会(指導方法事例発表、意見交換)を実施(5名)</p> <p>・11/24オンライン授業実施方法習熟度向上のための指導力強化発展研修会の開催(11名)</p> <p>○指導者研修会への参加</p> <p>・11/12農業者研修教育施設指導職員新任者研修(オンライン)参加(1名)</p> <p>・11/16～17農業者研修教育施設指導職員新任者研修(オンライン)参加(1名)</p> <p>・1/18関東ブロック農業教育施設協議会教育方法担当者研修(オンライン)参加(1名)</p> <p>○授業評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月全学生を対象とした前期の授業評価アンケートを実施 講義内容大体分かる(アンケート結果) 72%(昨年度58%)</li> <li>・併せて、5～7月に実施したオンライン授業に係るアンケートを実施 よかった又はどちらかというよかつた回答60%</li> <li>・11/17「オンライン授業の改善について」検討・報告</li> <li>改善方向:対面授業に相当する教育効果があり、授業時間割に沿った配信が可能なら同時双方向型遠隔授業の実施 受信環境の整備</li> </ul>	<p>A</p> <p>(87名/96名=90.0%)</p> <p>C</p> <p>(28名/41名=68.3%)</p> <p>D</p> <p>(6名/31名=19.4%)</p> <p>A</p> <p>(121名/121名=100%)</p>	<p>○教員研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から実施予定の同時双方向型遠隔授業について、教員の習熟度向上が課題である。このため、習熟度向上のための研修会を開催する。</li> </ul> <p>○指導者研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任者等においては指導力強化が課題であるので、オンライン研修も含め国等が開催する研修に積極的に派遣する。</li> </ul> <p>○授業評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業では、レポート提出の適正化、計画的な配信、受信環境の整備が主な課題であった。今後、課題の改善へ向けて、同時双方向型での実施が可能となる環境整備や授業時間割に沿った配信等に努める。</li> </ul>	<p>・教職員の専門性、指導力の向上が大変重要。</p> <p>・コロナ禍でオンライン授業となりながら、講義内容「大体わかる」が14%アップしたことを高く評価。</p> <p>・農業技術検定2級の合格者の割合が昨年より大幅に増加しており、学生の理解度の向上が見られる。HPに学生の合格体験等を掲載し、PRを図ってみてはどうか。</p> <p>・農業技術検定について、学生に受験の意義を理解させ、意欲的に技術習得に取り組むよう指導を願う。</p>	
				<p>(2)専攻実習等の充実</p> <p>①基本技術の徹底指導</p> <p>○実践教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に当たっては、学生が主体的に動けるように指導するとともに、講義の内容も踏まえて事前に目的、方法、留意点等を十分説明する。</li> <li>・学生の実践力がより高まるよう機械操作の機械を増やす。</li> </ul> <p>・座学の教科書では押さえきれない実習技術(作業手順や注意点等)に関する指導資料を作成し、職員が統一意識の元、学生指導にあたる。また、理解度の低い学生を対象とした補習を行い、基本技術を徹底する。</p> <p>・授業(総合基礎講座Ⅱ)において、農業技術検定の受験対策、指導を強化する。</p>	<p>○実践教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習開始時において、目的、方法、役割分担等の説明を丁寧に実施</li> <li>・トラクターの耕耘・整地やたまねぎ・ねぎの一連の機械操作実習の強化</li> </ul> <p>・農場管理(当番)マニュアルの作成と周知</p> <p>・農場当番等において、補習の実施</p> <p>・日本農業技術検定合格へ向けて授業を実施</p> <p>結果 3級:41名受験中28名合格(合格率68.3%、※全国平均66.0%)、2級:31名受験中6名合格(合格率19.4%、全国平均20.9%)</p>	<p>※評価基準</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 70%以上 90%未満</p> <p>C: 50%以上 70%未満</p> <p>D: 50%未満</p>	<p>○実践教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られたほ場のためトラクター等操作実習の機会が制限されることから、年間を通して耕耘・代かき等の実習ができるほ場を設ける。</li> </ul> <p>・農業技術検定合格率の向上を目指し、総合基礎講座Ⅱの授業において引き続き受験対策の時間を確保し、指導を強化する。</p>	
				<p>②先進技術の導入</p> <p>○G.A.P.に係る教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹園をGAPモデル農場と位置づけ、GLOBALG.A.P.基準の管理を維持し、「なし」の継続認証を目指す。</li> </ul> <p>・校内における水稲の県GAP第三者認証の継続認証を目指すとともに、いちご、トマトで登録基準に達するよう調製室の改善に取り組む。</p> <p>・GAP概論は畜産においてはHACCP(ハサップ)の視点を加えた内容を追加する。</p>	<p>○G.A.P.に係る教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8/25 グローバルGAP更新審査のため、審査員が来校し書面審査及び梨生産ほ場と管理棟の現地審査を実施。</li> <li>・11/24付でGGAP認証(梨、1年間有効)を受けた。</li> </ul> <p>・水稲の県GAP第三者認証の継続認証を受けるための事前準備や関係機関との打合せを実施。</p> <p>・12/8 栃木GAP第三者認証(水稲)が登録された。</p> <p>・12/17 栃木いちごGAP指導を受けた。</p>		<p>○G.A.P.に係る教育の充実</p> <p>GLOBALG.A.P.基準の管理を維持していく。</p> <p>・水稲の県GAP第三者認証を継続する。</p> <p>・栃木いちごGAP指導にもとづき改善に向け取り組んでいく。</p>	<p>・梨GLOBALG.A.P.の認証取得、農機メーカーとタイアップした先進技術教育、次世代型ハウス活用等に取り組んでいるが、今後も農業の技術革新を先取りする教育を継続していきたい。</p>

令和2(2020)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
			<p>○連携協定等による教育研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高性能機械化体系を習得するため、大学校の機械体系技術の他、全農等と連携しICTやロボット技術などの先端技術を活用したスマート農業教育を充実させる。</li> </ul> <p>・販売許可施設が整備されている三友学園等と連携し、農大産農産物を活用した農産加工品の製造方法・製造施設について学習を充実させる。</p> <p>○ICT技術・新品種等の導入(拡充または理解促進)</p> <p>・校内に整備されているICT技術については、講義・実習においてより理解度が深まるよう取り組むとともに、校外学習を通して関係機関や民間企業等が主催するフォーラムや現地検討会へ参加し最新技術を学習する。</p> <p>○土地利用型園芸技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端技術を用いた園芸の育苗施設(次世代型園芸人材育成施設)及びたまねぎ・ねぎの機械化一貫体系を有効に活用し、育苗からほ場管理、収穫・調整まで、最先端の露地野菜生産技術を習得させる。</li> </ul>	<p>○連携協定等による教育研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/11,15 クボタ、ヤンマーと連携の下、水稻密苗等移植や直進アシスト直播機を利用した水稻鉄コーティング直播を実施</li> <li>・9/1 キセキと連携の下、農業機械整備実習を実施。</li> <li>・アシスト直播機、ドローン利用、アグリネットシステム、フィールドサーバー、地中熱交換システム、牛群管理システム等を導入し、活用した。</li> <li>スマート農業に接する学生の割合(100%)</li> <li>・10/14農業経営学科2年露地野菜専攻7名が、三友学園において農大産たまねぎを使った6次産業化(調理)実習を実施</li> </ul> <p>○ICT技術・新品種等の導入(拡充または理解促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代型トマトハウス2棟、イチゴハウス2棟、育苗ハウス1棟を通信システム(アグリネット)による管理を実施した。</li> <li>・いちご学科用ハウスへICT器機を導入し新設した。</li> </ul> <p>○土地利用型園芸技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～3月 次世代型園芸人材育成施設及びたまねぎ・ねぎの機械化一貫体系を有効に活用(タマネギについては収穫・調整、ねぎについては育苗から定植、ほ場管理収穫・調整技術を習得)</li> </ul>	<p>○連携協定等による教育研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業学習機会の充実</li> <li>・全専攻の実習でドローンを活用する。</li> </ul> <p>○ICT技術・新品種等の導入(拡充または理解促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTシステム技術の習得に向け取り組んでいく。</li> </ul> <p>○土地利用型園芸技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収益性の高い水田経営の確立を図ることが課題であるため、機械化一貫体系の下一定以上の収量確保、高品質生産に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT技術導入が大幅に増加したことを高く評価するとともに、ICTを活用した授業に期待している。</li> <li>・ICTやドローン活用など先端技術を指導しており、学生の興味関心も高まっている様子。さらに充実を図るため、施設設備面で先端技術を導入し、指導法など工夫された。</li> </ul>		
			<p>③経営管理技術の習得</p> <p>○実践的経営管理学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の課題研究に基づいて、現地における優れた経営管理を学ぶため、先進事例調査など校外学習を実施する。(5月～2月)</li> <li>・県内先進経営者を講師に迎え、実践的な農業経営に関する授業(経営特別講座)を実施する。</li> </ul>	<p>○実践的経営管理学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進農家、農業法人など校外学習の実施(31回) 農経(8/24、9/2,7,9,17,23、10/14,21,26、12/7,21、2/22)、園経(7/28、8/3,17,25、9/14,18、10/14、11/13,25、12/10、2/16)、畜経(6/30、7/6,27、8/12,24、9/11、10/12,14)</li> <li>・県内先進経営者や第一人者を講師に、法人経営、6次産業化やグリーンツーリズムなど経営特別講座を7回実施</li> </ul>	<p>○実践的経営管理学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策を十分に行いつつ、社会情勢を踏まえながら実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの中に「経営」の授業を強化してほしい。先進技術の習得では現場から学ぶことも重要、これからは農業も企業経営を目指すべきであり、日本の農業を背負う経営者の育成を望む。</li> <li>・非農家学生が増えている中、農家の暮らしや仕事を研修、実践する必要。(県農業士、女性農業士の活用、オープンファーム事業等)</li> </ul>		
			<p>(3)学生の自主性・社会性の向上</p> <p>○販売学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント等への参加を主軸に行い、消費者との交流により、品質や価格設定など販売学習の理解を促進させる。</li> </ul> <p>○社会生活講座の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的経営者や第一線で活躍する方の話を聞くことにより、社会人として必要な知識を学ばせる。</li> </ul>	<p>○販売学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農大生産物販売等による販売学習等への対応は、コロナ禍の影響を受けほとんどが中止となった。</li> <li>・カインズホーム店内での農産物販促対応は、情勢を見ながらの試行的開催として8/26、12/18、2/17の3回を実施。</li> <li>・シクラメン販売会を、清原地区限定で3密対策を徹底し校内にて販売会を11/28実施した。</li> </ul> <p>○社会生活講座の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内第一人者を講師に、労働、ネット犯罪、契約トラブル、街づくり、薬物、命・健康など社会生活講座を8回実施</li> </ul>	<p>○販売学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢を踏まえながら実施をしていく。</li> </ul> <p>○社会生活講座の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の研究成果のPRの場として、公社の「食と農の交流室」などを活用してはどうか。</li> </ul>		
			<p>(4)校内環境の整備・リスク管理の徹底</p> <p>○新型コロナウイルス感染症感染防止対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業大学校における対策マニュアルを作成し、検温等の健康観察、マスクの着用、こまめな手洗い、校内の消毒、換気等3密対策など感染防止対策を徹底して行っていく。</li> </ul> <p>○継続した環境美化の励行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員と学生による校内一斉清掃をイベント開催時及び月1回実施するほか、日常清掃についても日頃からこまめな実施を心掛けていく。</li> </ul> <p>○受動喫煙防止対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法改正により昨年7月から原則敷地内禁煙となっていることから、灰皿の撤去等、敷地内全面禁煙を徹底していく。</li> </ul>	<p>○新型コロナウイルス感染症感染防止対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/28農業大学校における「新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル」を作成した。</li> <li>・12/1「感染症疑い発生時の緊急対応マニュアル」を作成した。</li> </ul> <p>○継続した環境美化の励行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめな日常清掃、月1回の各学科・専攻の実習時間等を利用しての清掃分担区毎の清掃のほか、各倉庫の整理整頓等も行った。</li> </ul> <p>○受動喫煙防止対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内の灰皿は全て撤去し、学生や未成年だけでなく、未来塾や機会研修等の成人・社会人に対しても敷地内全面禁煙を徹底した。</li> </ul>	<p>○新型コロナウイルス感染症感染防止対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底していく。</li> </ul> <p>○継続した環境美化の励行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに安全衛生面の向上を図るため、各学科・専攻の使用施設等の環境美化に努めていく。</li> </ul> <p>○受動喫煙防止対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受動喫煙の防止ならびに火災等の防止ため、特に成年・社会人を中心に、敷地内全面禁煙について周知・徹底を図り、指導を強化していく。</li> </ul>			

令和2(2020)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
			<p>○施設・教育現場でのリスク対応総点検の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の校内におけるヒヤリハット事例を安全衛生マニュアルに登載するとともに、引き続き事例を収集し、その改善策を共有していく。</li> </ul> <p>・新型コロナウイルス感染症対策のマスク着用により、例年以上に熱中症誘発のおそれがあるため、マニュアルによる屋外実習時等の取扱いや救急出動要請等について、全体で情報を共有し、注意喚起ならびに安全管理の徹底を図る。</p> <p>○学校施設・設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の長寿命化を図るため、定期点検の実施や見回り等により、施設の状態や使用状況を十分に把握し、計画的な予算の確保に努める。</li> <li>・大規模改修については、緊急度や優先度の高い順に予算要求を行い、できるだけ早期の対応を図るとともに、小規模修繕については他部局の予算も活用しながら、速やかに対応していく。</li> </ul> <p>○個人情報の適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報を扱うことについて、危機管理意識を高め、事務の誤りが起きないよう、必ず複数の職員でダブルチェックを行う等、職員の意識向上と事務管理の徹底を図る。</li> </ul>	<p>○施設・教育現場でのリスク対応総点検の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全衛生週間等に前年度のヒヤリハット事例の情報提供を呼びかけた。</li> <li>・実習や作業時の危機管理対応として、作業用安全ヘルメットを各専攻(学生用、職員用)に購入配備した。</li> </ul> <p>・消防署に新型コロナウイルス感染症も含めた救急要請の方法等を確認し、全職員で情報を共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外実習時のマスク着用や3密の回避についてルールを徹底し、注意喚起を図った結果、学生・職員共に熱中症による通院事例等は発生しなかった。</li> </ul> <p>○学校施設・設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の状況を細かくチェックし、特に安全や防犯対策に係るものを中心に他部局の予算を活用しながら、小規模な工事や修繕を積極的に実施した。</li> </ul> <p>・老朽化した施設や空調、電気設備等の維持改修及び解体工事について、計画どおりに実施することができた。</p> <p>○個人情報の適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証明書の発行や入試事務等において、必ず複数の職員によるダブルチェックを徹底して行い、事故無く適正な管理を実施することができた。</li> <li>・暗号化可能なUSBに管理ナンバーを付与して配布、台帳により管理することとし、個人USBの使用を禁止した。</li> </ul>		<p>○施設・教育現場でのリスク対応総点検の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重大な事故に至ってはいないが、ヒヤリハット事例が散見されることから、改めて安全管理について、点検や情報共有を確実にやっていく。</li> </ul> <p>・校内における安全な研修・作業に向け危機管理を徹底していく。</p> <p>・当面はマスクの着用が続くことから、引き続き、校内における安全管理を徹底し、熱中症防止等に努めていく。</p> <p>○学校施設・設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急度や優先度を考慮した施設・設備の整備計画に基づき、引き続き計画的な予算の確保に努めていく。</li> </ul> <p>○個人情報の適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度においても、引き続き必ず複数職員によるダブルチェック体制を徹底して行っていく。</li> <li>・在宅勤務の実施に伴い、漏洩・流出等事故を起こさないよう、改めて個人情報の持ち出し原則禁止ならびに使用PCやUSBの管理を徹底していく。</li> </ul>		
			(5)新型コロナウイルス感染症対策の休校に伴う補習等実施					
			<p>○ICTを活用したオンライン授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休講となった講義について、YouTubeを活用したオンライン授業を実施する。(5～6月)</li> <li>・今後のオンライン授業の対応について、検討する。(7月)</li> </ul> <p>○授業の補充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休講となった実習、実験・演習等については、教育計画書を変更して長期休暇等に補充する。(7～9月)</li> </ul>	<p>○ICTを活用したオンライン授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休校となった4～5月の講義等18教科目について、YouTubeを活用したオンライン授業を実施した。(5/12～7月)</li> <li>・今後のオンライン授業の対応について検討し、報告した。(7/21)</li> </ul> <p>○授業の補充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休講となった実習、実験・演習等については、教育計画書を変更し(7/1)、当初の授業計画終了後8月にかけて補充した。</li> </ul>		<p>○ICTを活用したオンライン授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業に相当する教育効果を上げることが課題である。このため、オンデマンド型(YouTubeなど)でなく同時双方向型の遠隔授業ができるよう環境を整備する。</li> </ul> <p>○授業の補充</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業と対面授業を組み合わせた分かりやすい授業が実現できていることはすばらしい。</li> <li>・オンライン授業について、今後学生の理解がさらに深まるよう、双方向型でのオンライン授業の充実を願う。</li> <li>・オンライン授業について、双方向の授業はもちろん様々な場面でのオンライン活用を検討いただきたい。</li> </ul>	
			(6)「いちご学科」創設に向けた準備の実施					
			<p>○規則改正とカリキュラムの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちご経営者の確保に向けた教育研修体制を確保するため規則改正を行い、カリキュラムを策定する。</li> </ul> <p>○効果的な広報及び学生募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県及び農業内外から広く希望者を募るため、対象を絞った効果的な広報と学生募集を行う。</li> </ul>	<p>○規則改正とカリキュラムの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に規則改正し、カリキュラムを策定した。</li> <li>・本科及び未来塾に加え、各農振の意見を踏まえながら、効果的なカリキュラムとなるよう教育計画を作成した。</li> </ul> <p>○効果的な広報及び学生募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター、募集パンフレット、チラシを、県内各市町、JA関係機関、全高等学校、農業系学部設置大学、足利銀行県内外支店、東京事務所に配付した。</li> <li>・ホームページ、SNS:いちご王国栃木instagram、サイネージ広告、広報課ツイッター、県メルマガ等で随時情報した。</li> <li>・県内外に広く募集を周知するため、各種広報媒体を積極的に活用して効果的に実施した。(Nらじ、CRT栃木放送、カジル、時事通信、レディオベリー等)</li> </ul>		<p>○規則改正とカリキュラムの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な就農に向けた支援体制の確立が課題となるため、在学中から就農・定着まで、各地域と連携した支援体制を確立する。</li> </ul> <p>○効果的な広報及び学生募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募前に就農に向けた準備を理解させるため、オンラインなども含めた相談体制を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たないちご学科を武器にさらなる発展を願う。日本一の農業大学校になっていただきたい。</li> <li>・いちご学科については、カリキュラム内容のPRなど、他の学科研修との差別化を図りながら、社会人層にアピールする必要がある。</li> </ul>	